
ライバルは引っ越しして来る！？

keita

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライバルは引っ越しして来る！？

【Nコード】

N7181Y

【作者名】

keita

【あらすじ】

俺はただの高校生、めんどくさがり屋で帰宅部のどこにでもいる平凡の高校生！のはずが隣に引越しして来た女がいきなりわけのわからんことを言ってきた「妹さんを私に下さい」だどー、いきなりそんな事言われてもしんねーよ！てかお前女じゃねーかよ！もう意味わかんねーよ！平凡だったはずの高校生を「非」平凡に巻き込むお騒がせストーリー！

読みにくい所もあると思いますが優しく見守ってください。

誤字などどんな些細な事でもいいので感想ください！それでまた

頑張って書く事ができます！

投稿はできるだけ早くできるように頑張ります。

よろしく願います。

第0話 プロローグ

あー、眩しい、いい天気だなー。

片腕を目の前にあて太陽の光を遮りながら空を見上げる。

こんな日は太陽の陽気を浴びながら家でゆっくりとゴロゴロしているか、一層のこと少し遠くまで散歩なんかするのでもいいかもしれない。

とか思いつつ俺は学校指定のジャージに身を包んで自分の家の門の前に立っている、決して散歩に行くわけではない、俺はこれでも17歳、少しめんどくさがり屋で帰宅部なんだが今時の高校生だと自分で自分を自負している今時の高校生がジャージ姿で散歩に行くか？行かないだろ！いや、まてよ、まず今時の高校生が散歩に行くこと自体が変か？

なんて事はいいんだよ！、どうして俺はこんな所にジャージ着ているんだよ！、今日は土曜日、せっかくの高校が休みの日なんだぞ！、現在の時刻8時ちょっと前、本当なら家の俺の部屋でまだゴロゴロと寝ているはずなのに！。

「もうすぐですね！絶対に負けませんから！」

隣ではりきって準備運動をする女、なんだよ朝から元気だなー、こっちはまだ眠いのにはあー泣けてくるよ。

8時になる。

拡声器の音が聞こえてくる。

「あーあー、テストス、マイクのテスト中」

「さあ、8時になりました！」

「ママ、今日は絶好の大会日和になったなー」

「なったわねパパ」

「そろそろ時間だから始めようか！」

「そうね！」

「それでは第一回ドキドキ本当のお兄ちゃんにふさわしいのはどー
つちだ！？大会を開催しまーす！」

「司会兼解説はパパと！」

「ママでー！」

「お送りしていきまーす！！！」

まさか本当にこんなことが起きてしまうなんて。

隣にはいかにも闘志丸出しにガッツポーズをしている女、反対側にはどこから借りて来たのか運動会の実況席で使う様な大きな机とイスを2つ並べイチャイチャしている両親、庭には何もわかってないのだろう、美味しそうに朝食のおにぎりを食べながら「がんばれー」なんてエールを送る妹、俺は周りを見て深いため息をついた。

なぜこんな事になってしまったのだろう、そう、きっとは昨日の
高校からの帰り道にさかのぼる。

第0話 プロローグ（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

次も楽しみにしてください。

あとできたら感想お待ちしております。

第1話 ライバルは何者!?

俺は家に向かう田んぼ道を妹の真由と歩いていた、真由は小学4年生で、学校の成績は中の上くらい、スポーツはまあまあできる方だ、容姿は兄の俺が言うのもなんだが、そこらにいる女の子よりはまあまあ可愛い方だと思う・・・いやまあ可愛い方かな? いや、取り合えず可愛い方だと思う。

言っておくが俺は決してシスコンではない、これ重要!

その日はたまたま真由の小学校と俺の高校の終わる時間が同じで俺と真由の学校は距離的にはあまり離れていないし、帰り道が同じだからばったり途中の道で会って一緒に帰ることになった。

「お兄ちゃん宿題でわからない所あるから後で教えてくれない?」

「ああ、わかった、後で部屋来いよ教えてやるから」

「うん、わかったー」

など、まあたわいのない兄妹がいる人なら一度はした事があるだろう会話をしながら歩いていた。

あと家まで15分くらいの所で妹が、

「あ、今日みたいテレビあったの忘れてた、もう終わっちゃいそうだから先帰るねお兄ちゃん。」

と言って先に走って行ってしまった、俺は特に用事があるわけで

もないからゆっくり歩いて帰ることにした。

この家の角を右に曲がって数メートル行けば家に着くって所でいきなり後ろから制服を引っ張られた。

「うわー！」

びっくりして後ろを振り返るとそこには自分と同じか少し下くらいの年齢に見えるロングヘアでこの辺では見かけない学校の制服を着た可愛い女が立っていた。

初めてみるやつだな？

「あの、なんか用ですか？」

と、聞くと女は慌てて自己紹介をしてきた。

「あ、ごめんなさい、私昨日あなたの家の隣に引っ越して来た鈴木夏花です」

あ、囁んだ、

「ごーも、高橋京平です、よろしく」

「こ、こ、こちらこそよろしく」

また囁んだ

彼女は少し涙目になっている。

少し変な人だな、あんま関わらない方がいいか、

「それだけなら俺ちょっと急いでるから、これからよろしく、じゃあ」

前に向き直り家に向かおうとした時また制服を引っ張られた。

「う」

「あ、あの、待ってください」

俺はまた彼女の方に向き直る。

「なんですか？まだ何か？」

「あの、あの」

仕切りに指を合わせたり離したりモジモジしている。

「えっと、あのですね、大変言いにくい事なんですけど」

「はい」

「その、あの、えっとですね」

「はい」

表には出さないが心の中で溜め息をつく、ちょっとめんどくさく
なってきた。

「その、あの」

「はあー」

つい声に出して溜め息をついてしまった。

「だからなんですか？どうでもいいならもう行きたいんですけど」

「あの、じゃあ言います！」

「はい」

大きく深呼吸をして彼女は思いも寄らない一言を言い放った。

「妹さんを私にください！」

「はい・・・はい!?!」

今何って言ったこの女？

「あの、今なんて言いました？」

「え、だから、あの、妹さんを私にください！」

聞き間違いじゃなかった、確かにこの女今妹をくれって言ったよな、妹って俺の妹だよな？つまり真由の事だよな？でも真由は女だしこいつも女、くदाさいって変だよな、やっぱり俺の聞き間違いだったのかな？いや、そんなはずない2度聞いたんだ、確かに2度も妹をくれって言ったよな、でも妹は女だし、こいつも女、あれ？これさっきも同じ事考えなかったか？それにこう言うのって普通親

に言わないか？ってそんななんどつでもいいか、え、あ、う、もう、わけわかんねー・・・わかったぞ！こいつは変態だ！関わってはマズイ！

彼女に背を向ける、

「ん！？」

黙って家に向かってもうダッシュする。

「え！？、ちょ、ちょっと待ってくださいよー」

変態が後ろから追いかけて来る、俺はスピードを上げる。

「待ってー」

「バターン」

彼女がおもいつきりこけた。

だがそんなのは無視して家に向かってダッシュする。

家に着き急いで玄関を開け中に入って鍵を閉めた。

静かにする、足音や声は聞こえないどうやらもう追ってきてないようだ。

俺は大きく深呼吸した、靴を脱ごうと前を向くと啞然とした顔で妹がこちらを見ていた。

「どうしたの、お兄ちゃん？」

片手には麦茶の入ったコップを持っているどうやら飲み物を取りに台所に行き麦茶を持ってリビングに戻るところに行くわしたらしい、

「いや、なんでもないよ」

息を整えながら言う、

「なんでもないって物凄く息荒いよお兄ちゃん」

「いや、ちょっと体なまってるなーと思って走って帰って来たんだ」

「そ、そっか、でもなんで急に？」

「い、意味なんてないよー、なんとなくね、と、とにかく大丈夫だから早くリビング行ったら」

「う、うん」

そう言い不思議そうな顔をしながら真由はリビングの扉を開けて中に入った。

「ふうー危なかった」

そう、なんでもないのだ、うん、決めた！帰り道で会った女の事は忘れよう！

俺は2階の自分の部屋に向かった。

「ただいまー」

親父が帰って来た、我が家では親父が帰って来る＝晩飯の時間という暗黙の了解がある、今時珍しく晩飯はみんな食べている。

食卓に俺、妹、親父、母さんの4人全員が顔を並べ飯を食べ始めた。

晩飯を食べ始めて15分くらい経ったらころ親父が突然言った。

「あ、そうだ京平、明日早く起きろよ、隣のお嬢さんと真由のお兄ちゃんに本当にふさわしいのはどっちか勝負することになったから」

・・・？

「カタ」

箸を落とす。

「えー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7181y/>

ライバルは引っ越しして来る！？

2011年11月24日01時54分発行